

黒部を未来へつなぐ

<ご挨拶>

いよいよ議員任期最終年。自分自身 3 年間で何が出来たのかを検証し、足りなかった部分をこの後の 1 年間で計画を立て、取り組んでいきたいと思ひます。



北陸新幹線や 8 号線バイパスは地域を発展させる「きっかけ」でしかなく、発展するかどうかは、私たちの取り組みにかかっています。世界に取り残されないように、どうしたら稼

まさゆきの8つの想い

1. 観光地整備と情報発信力の強化
2. 住み続けたいと思えるまちづくり
3. 安心・安全なまちづくり
4. 都市基盤の整備
5. 人口減少時代のまちづくり
6. 災害に強いまちづくり
7. 働き場所のあるまちづくり
8. 生き活きと生活ができるまちづくり

ぐ地域になるのか、安心して生活ができる地域になるのかを真剣に考え、行動する地域が地域間競争に勝つのだと考えます。

「黒部を未来へつなぐ」成川 正幸

まさゆきの視察・勉強会

9月

ホワイトボードミーティング in 上越参加

平成29年度 福祉のお仕事フェア in TOYAMA ~福祉の就職総合面談会2017~
我が事業所紹介

福祉のお仕事フェア 参加 7月

子どもの貧困対策 8月

三島盆踊り...今年も大布版と三島神社にて

地域共生ホーム全国セミナー参加

富山型サービスの理念
・年齢や障害に関係なく、誰もが地域で共に暮らせる町作りを考える
・誰も排除しないでいじめごと

宇奈月温泉駅



黒部は今、分岐点！ 先人の努力を次世代へつないでいきたい。



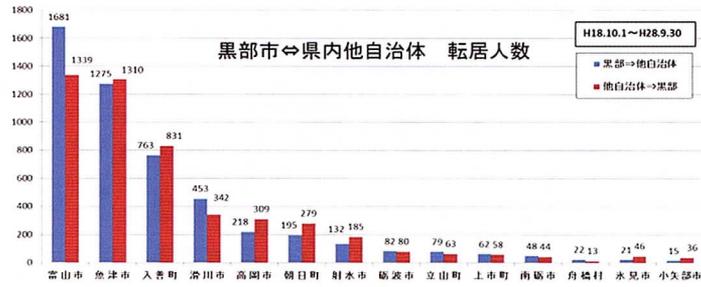
なりかわ 成川まさゆき facebook で活動公開中！

平成29年6月議会

1. 人口問題について

(1) 転入より、転出人数が多い自治体対策は

移住定住希望者に対する本市の効果的なPRや魅力的な制度の創設に努める。



(2) 市内有効倍率と障がい者・高齢者の市内雇用状況について

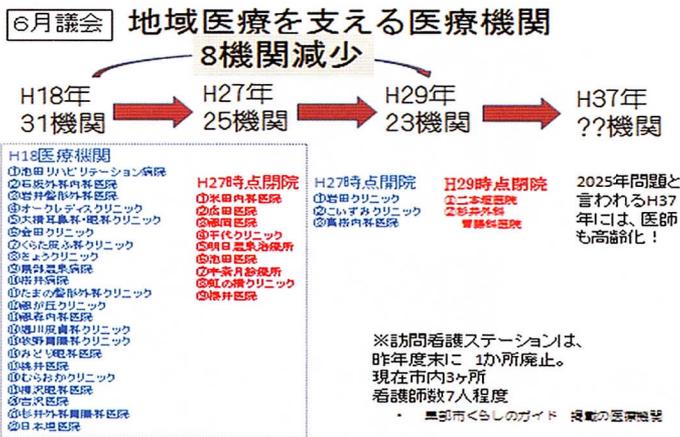
有効求人倍率(4月末)	2.13倍(県内3位)
有効求人倍率	2.16%
高齢者雇用倍率	8.7%

まさゆきの視点

黒部市の注目度が上がり、新規オープンのお店などが目立ち、活気づいてきたように感じますが、地元事業者の廃業される方も増加しています。皆さんは本市の現状をどうお考えですか。

3. 地域医療について

(1) 在宅医療に関わる医師や看護師の現状について



(2) 地域毎の人口問題を考えることが重要では

今後、官民一体となって、これからの地域について議論を深め、施策に反映していきたい。

まさゆきの視点

どうしたら住んでもらえるのか。住み続けてもらえるのか。ニーズはどこにあるのかをしっかりと検証しなければいけないと思います。行政だけで考えるのではなく、市民全体で自分たちのまちを考える事が重要だと思います。人口問題は地域の未来にとって最重要課題です。

2. 商工業の振興と就労について

(1) 既存商店等に対する支援について

国の補助制度の要件緩和や拡大も含めた柔軟な支援制度が創設できるよう協議、検討する。

市内医療機関のうち訪問診療・往診を行っている医療機関16か所。(H27.9現在)

現在、市内医療機関医師の高齢化と新規開業がない限り、医療機関の減少が予測される。



(2) 医療と介護の連携と在宅医療の市民理解について

「黒部市在宅医療・介護連携推進会議」で実施。今後、退院から在宅移行時、市民病院職員とケアマネージャーと連携をより強化していく。市民に理解していただくため、在宅医療推進のための市民公開講座を年2回開催。今後も積極的に周知する。

(3) かかりつけ医と市民病院間の連携強化を。(H28年度)

紹介件数	60,704件	対前年+242件
逆紹介件数	4,982件	対前年+571件
初診患者数に対する紹介率	33.4%	
初診患者数に対する逆紹介率	24.8%	

(4) 地域医療の現状と今後の方向性について

医療ニーズに応じた地域医療体制構築の必要性を認識している。

まさゆきの視点

市民は最後まで安心して医療を受けることができるのか。市民の皆さんから良く聞くのは、「市民病院があるから大丈夫」との声です。

黒部市民病院は新川医療圏の基幹病院として、主に高度急性期医療や急性期医療を行う、すなわち「急性疾患または重症患者の治療を24時間体制で行なう事」を担う病院となっています。ですので、病状が安定してくると他の病院もしくは在宅での療養になります。そこで重要なのは、地域医療を支える医療機関です。減少している現状を考えなければいけません。

4. 福祉総合窓口の設置について

(1) 総合相談窓口開設を目指し、職員研修にチカラを入れてはどうか。

今後、関連相談支援機関との連携と、福祉分野横断的な基礎的知識を有する人材育成・確保に努めていく。

福祉の窓口一本化、100自治体に相談員 厚労省方針

2015/11/17
 日本経済新聞 電子版
 厚生労働省が17日に公表する福祉サービスの移管方針が明らかになった。介護や障害、子育てなど個別に分かれていた福祉サービスの窓口を、様々な福祉サービスの相談に対応する「福祉相談員」を100自治体に新設する。職員の訓練も行う予定で、窓口業務の一元化による業務効率化も期待されている。

新設するのは自治体別支援員(福祉)。現在は子育て支援向けの児童相談所や生活福祉課の窓口である福祉事務所など個別に備わっている。障害のある生活困窮者が高齢者の福祉に直結した福祉など、さらに相談すればいいという状況下で、窓口が一元化されれば対応するケースが多くなる。

新設する相談員は、このように説明されている。

(2) 相談の多様化や国・県から市への家庭訪問業務移行に対する人員の確保について
 一層の体制強化に努める必要がある。

まさゆきの視点

現在、高齢者や障害者など相談する方がどんな人なのかで相談場所が違います。しかし、障害を持つ高齢者、子育てしながら介護している方など相談が複数にまたがる方が存在しているのが現状です。

5. 健康都市宣言について

(1) 「住民が健やかで幸せに暮らせる地域社会を目指すまち」を目指し「健康都市宣言」を検討しては

市の健康増進計画が平成30年度で10年が経ち、取組評価と見直しを行う時期であり、調査・研究していく。



皆様のご意見をお気軽に是非、お寄せください

後援会 連絡先

成川正幸(なりかわ まさゆき) TEL (0765)57-1189

黒部市植木 107-7 FAX(0765)57-1189

携帯 090-1317-7155 Mail: masa.narikawa@gmail.com



まさゆきの視点

市民一人ひとりの健康意識が大切だと思います。宣言はその「きっかけ」づくりとして提案しました。

平成 29 年 9 月議会

1. 介護職員確保について

(1) 市内福祉事業所の情報発信について

介護職に対するイメージアップが大切であり、さらなる支援を行えないか検討する。

(2) サポーターポイント事業の事業所数と登録者数は

受け入れ事業所数 27 事業所、地域支え合い推進事業実施の 4 団体。



介護職員初任者研修助成を公立だけでなく民間企業等による研修受講者にも、平成 30 年 4 月からの実施を検討する。

(5) カ仕事を助ける介護支援用ロボットの市内事業所活用状況は

導入している施設はないが昨年、認知症見守り支援の介護ロボットが、グループホーム 1 施設に 12 台導入されている。

(6) 腰痛防止の観点から介護施設用器具に助成してはどうか。

今後の検討課題にしたい。

まさゆきの視点

このまま何もしないでいくと市内の介護施設は職員不足に陥り、休業状態になるかもしれません。国の動きを待つだけでなく、考えられる事、出来る事から取り組む事が必要だと思い、提案しました。

報発信について

民生委員を対象に、研修会を毎年行っているが、今後さらに対象を広げる事も検討するとともに、市の自殺対策のオリジナルキャラクター「いのちまもるくん」の周知活動等、広報活動を工夫したい。



(4) カタチだけではない実効性のある自殺対策計画の策定を。

県及び市町村は、地域自殺対策計画を策定するものとされ、本市も平成 30 年度末までの策定目標としている。

市の自殺の状況や、地域の特性に応じた、実効性のある計画の策定を進めていきたい。

(2) 共生型サービス事業所が位置付けられ、地域バランスは。

今後の動向を踏まえ、適切に対応していく。

(3) 平成 30 年の障害者総合支援法改正で障害者も介護保険サービスの利用が優先となるが

65 歳以上になっても使い慣れた障害福祉サービス事業所を利用継続出来るのが利点となる。また、一定の高齢障害者に対しては利用者負担を軽減する措置が取られるので、これまでの問題の解消につながるものと考えている。

まさゆきの視点

介護と医療連携に加え、障害も入ってくる事で、どこまで他職種で互いに理解出来るかが課題である。利点を最大限活かす為に平成 30 年度制度施行まで準備を進めて欲しい。

サポーター登録者 217 名。(H29.8 末現在)

(3) サポーターポイント事業のPR強化と若年層のボランティア特典について

今後さらにPR強化に努める。

介護保険法の対象者に合わせ、本事業も事業の対象者を 40 歳以上としている。

今後は、若年層の学校教育での学習などを通して意識を高めることや介護支援サポーターポイント事業の導入及び介護予防・健康増進につながるポイント付与について検討する。

(4) 資格取得を容易にするための夜間授業開催の働きかけと研修費用の助成について

受講しやすい方法を検討する。

また、入口だけではなく離職という出口も考え、対策を打っていくことが介護職員確保に大切だと考えています。

2 メンタルヘルス・自殺対策の取組について

(1) 本市の取組はどうか。

本市では「誰も追いつめられることのない社会」の実現に向けて、地域自殺対策事業に取り組んでいる。

(2) 小中学校の取り組みは。

臨床心理士等とのカウンセリングを実施。

自殺予防対策については、関係機関と連携しながら組織的に対応している。

(3) 市民対象の研修会実施と気軽に相談ができる窓口の開設や、情

まさゆきの視点

本市は周辺自治体で唯一、人口の社会増が多いため、人の繋がりが弱くなる傾向にある地域だと考えます。孤立しない状況にならない地域・社会になることこそが安心して生活ができる「住みたいまち・選ばれるまち」であり、市民の幸せがあってこそ、観光や経済の発展があると思います。どこより住みやすい地域になってほしい。そんな思いで質問をしました。

新川地域介護保険・ケーブルテレビ事業組合議会 8 月議会

1. 第 7 期介護保険事業計画に向けて

(1) 他職種連携のための勉強会などの考え。

関係分野の従業員や地域住民への研修等の実施が必要。

2. 要介護認定者数について

(1) 認定後の重症化防止強化の取組状況と考えは

地域支援事業、さらには認定を受けていない一般高齢者を対象に介護予防事業に取り組んでいる。

(2) 第 2 号被保険者の要介護認定者数は今後、他職種連携などにより増加しないか。

増加するものではないと考えている。

※まさゆきの視点

認定後の介護予防重症化防止が重要です。また他職種連携が上手くいくと、その後の要介護度が気になります。リハビリの重要性が増しているのではと考えます。





6月定例会において 「議案第42号(仮称)くろべ市民交流センター建設基本構想について」の 採決に賛成をし、その結果、賛成多数により可決しました。

基本コンセプト「市民が集い学ぶ文化・交流の拠点」

<対象施設利用の現状>

- ◎対象施設の老朽化率（H28年度）全て耐震性無。
黒部市立図書館 88%、三日市公民館 78%、黒部市民会館 100%、働く婦人の家 78%
- ◎施設場所は市街地であり、三日市公民館、働く婦人の家、市民会館は隣接し、いずれも事務所・研修室等、機能的に類似した施設である。
- ◎各施設の利用人数は減少傾向にある
- ◎子育て支援センター 月家賃 4万4千円⇒18万円（経営者が変わる）



建設事業費の概算工事費：27～28億円 ゾーニング 1,600㎡×4階=6,400㎡

基本構想(策定委員会)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度以降
基本構想(策定委員会)	←→				
基本構想(庁内検討)	←→	←→			
設計者選定手法検討		←→			
設計者の選定			←→		
基本設計・実施設計			←→	←→	
施設運営計画の検討	←→	←→	←→	←→	
建設工事(旧庁舎解体等を含む)					←→

◎単独施設の財源見込について

- (1) 図書館…平成9年に文部省補助制度は廃止
- (2) 公民館…平成9年に文部省補助制度は廃止
- (3) 働く婦人の家…補助メニューなし
- (4) 市民会館…対象と考えられる補助金なし

<財源比較>

【複合施設で建設の場合】

交流センター建設費：2,560百万円
※市の財源負担額 1,050百万円

【図書館と交流センターの単体建設の場合】

図書館建設費：①1,920百万円
※市の財源負担額 787百万円だが補助金採択が難しい
交流センター建設費：②791百万円
①+②=2,711百万円⇒市の実質負担額 1,578百万円

◎公共施設の再編に関する基本計画(平成27年10月)

公共施設の再編に関する基本計画では図書館と三日市公民館は長寿命化、市民会館と働く婦人の家は建物の解体と判断。

図書館と三日市公民館は、劣化度調査を踏まえて建物の複合化などを検討する。



まさゆきの視点

本市でも、高度経済成長期を中心に整備した多くの公共施設が、改築や大規模改修の時期を迎えており、今後、更新等に関する経費は大きな財政負担となることが予想されています。

また、人口減少や少子高齢化、市民ニーズの多様化により、公共施設に求められる役割も大きく変化してきています。そういったことから将来を見据え、公共施設のあり方について、改めて見直さなければならない時期です。

そこで本市は平成27年10月「公共施設の再編に関する基本計画」で公共施設の今後のあり方や方策などの基本的な考え方を示し、公共施設の最適化、効率的・効果的な管理運営の実施、財産の有効活用などを取り組んでいます。

(仮称)市民交流センター建設においても、市民の現在の生活や未来の黒部市を見据え、無駄なものは無くし、次世代に負担を先送りしないという考え方が大事です。(仮称)市民交流センター建設に関し、保有財産の縮減の観点から地域に見合った再編、複合化であると考えます。

なりかわ facebookで活動公開中!
成川まさゆき



なりかわ

成川まさゆき後援会

〒938-0014 富山県黒部市植木 107-7
TEL & FAX (0765) 57-1189
Mail/masa.narikawa@gmail.com